社説

保守論の根據

世間には保守論の氣炎甚だ盛にして新進の少年をして此病に感染するが如くなれども一體日本の粹として世界に誇る可きものは何處に在るやと尋ぬれば明白に答辯するゝと難かる可し有形の事物を比較すれば彼我優劣の差則は明白にして何人も爭ふを能はず電氣燈と提灯、汽車と大八車の類は論外として姑く措き稍々無形に入て政治法律學問教育に至ても一切彼に劣ばざるを得ず有志者の憂は只あれを學で及ばざるに在るのみ是れは國粹論者も夙に同意する所なれば其論の根據は實利以外の地に求めざる可らず然るに宗教、美術、道德、風俗等は誠に漠然たる問題にして尺度以て長短を計る可からず權衡以て輕重を示す能はず素人も論じ易くして學者も亦判斷に苦む所あり點局水掛論に歸するゝと なれば此所ぞ即ち保守論者の根據地にして文明軍も容易に進擊するを得ず數壇の問題なれば迷信なし算盤上の利害明白にして直に去就を決す可しと雖も道德風俗等に至ては好惡邀信等の纏綿するありて假令ひ理屈に於ては優劣を知るも實際その理屈通りに進退するゝと能はざるの情を存して是れ亦保守論の容易に降參せざる一原因なる可し元來西洋と日本とは其歷史を異にし人種を殊にするが故に其間に養進したる事物も亦自から趣を異にして互に長短なきを得ず西洋のもの悉く美なるに非ず日本のもの皆醜なるに非ざるは勿論なれども是れぞ日本の特色なりとて大に誇る可きものなきは我輩の竊に遺憾とする所なり例へば我宗教の哲理は深遠なりとて威張らんか耶蘇教は多年理學哲學の爲めに磨かれて光澤鮮なれども佛教は殆んど生れたるまゝにして恰も野生の草木の如し假令ひ其質は美なりとするも迚も文明國民を滿足せしむるに足らずとの議論もある可し職は忠孝は日本の特色にして他に比類を見ずと云ふか如何にも西洋には高山彦九郎流の忠臣なしと雖も去る代りに國家と云へる理想を國旗に代表せしめて神聖犯す可らざるものと爲し之が爲めに身命を惜まざるは猶ほ日本人が君の爲めに忠義を盡すに異ならず有形の本尊を拜するも無形の理想に殉するも其心は則ち一のみ又親に孝行を盡すは人間の美德なれども東洋の特產なる二十四孝流の孝行は譽むるに足らず子を私有物視して無限の義務を負はしめながら同時に親の非道を問はざるが如きは偏頗なる教にして至道と云ふ可らず之を以て日本の粹として誇らんとするは大なる心得違なる可しなど論ずるものあらば恐らくは返答に窮するゝとならん或は日本の美術は特種の風韻ありて世界無類なりとの說あれども是れは只養進の程順を異にするまでにして美術の元則に照して果して優劣なるや否や容易に斷ず可らざるのみか實學工藝醫師看護婦等百般の人事みな我よりも進歩したる西洋に於て美術のみ獨り養進せずとは思はれず少なくとも其歷史は恰も日本風ぞ西洋服ぞと比較するが如き者とすれば則り美術に心醉して實學を排斥せんとするは偏見と云ふ可し [illegible] 男女間等一夫多妻と [illegible] と平袖、チョン髷、[illegible] 衆食等兩々比して孰れが良きか說明を待たず

して明なるもの多し左れば保守論の根據は甚だ薄弱に して其餘分の次第に蠶食さる可きは疑ふ可らず實利の世界は既に感化して學問技術一として彼に學ばざるものなきのみか風俗習慣も漸く一變せんとする今日に至て尚は一局部に籠城して徒に舊物を守株せんとするは天下の大勢を解せざるものにして譬へば病來復して川々の氷も解け山頂の雪も消えんとする時に當りて一片の氷雪を蓄へて獨り嚴冬を求めんとするに異ならず只痴情と云ふ可きのみ活眼看來れば文明の局量長甚だ廣くして日本流の美術を容るゝのみならず世界諸國の風俗習慣中にも自から採る可きものなきに非ずと雖も只管舊物古風に心醉して他を排斥すれば我は滋養分に富める食物を得ずして痩せ衰へたるまゝ世界の片隅に孤立せざるを得ず即ち西洋諸國は根を四方に擴げて枝葉繁茂せる大木の如くなるに反して日本は恰も盆栽の松に等しく只物數奇の眼を喜ばしむるに過ぎざる可し左れば今日の要は只速に盆栽の鉢を叩き壞して沃野の中央に之を移植し以て亭々たる喬木たらしむるに在り既に一握の土は以て草木を養ふ所以に非ざるを發明し半ば鉢を破りて多少根を大地に移しながら其途中に至りて躊躇するが如きは男兒の本祿ならずや國を開かば大に開く可し進まんとならば斷じて進む可し虛心坦懷、悉切て世界の事物を容るゝと共に世界に向て大に我を容んとを求め共に方向を與にし運動を共にして始めて國運の隆盛を見る可きのみ我は東洋人なれば東洋風を維持せざる可らずとて自から劃し彼れ亦日本は到底我等の仲間に非ずとて擯斥せば障碍百出して到る所蹉跌す可きは明白なり假令ひ國の位地は東洋に在りとも人事は總て西洋風にして彼等をして自から同類たるの感を起さしむるゝを大切なれ國民は今日より歐洲の中央に國旗へしたるものと心得べきのみ

○地方事情（十二）

岐阜縣

高松 七月十九日發信

本縣に於ける重要物產は米、麥、蠶、砂糖等にして米は五百萬圓、麥は三百萬圓、食鹽は六十萬圓砂糖は百萬圓の產出價格を得つゝあり醬油も亦六十萬圓の產出を見る其他甘藷、清酒、素麺、菜種、織物、紙、團扇、茶、水產製造物等各々十萬圓內外の產額あり、近來蠶繭、生絲、麥稗、眞田の類新事業として漸次發達の兆あり今左に最近の調査にして今日迄に其筋へ報告ありたる特產物の一二を掲げて其一斑を報ぜん

三野郡田部

種類	產額	價格
蠶繭	四千百九十七本	三萬八千七百七十三圓
麥稗	八萬七千七百七十五反	三萬六千百九十三圓五十錢
竹器	五百九十七圓	五百四千八十八圓六十六錢
雜織物	七千八百八十三圓	一百九十七圓
雜織物	十二萬三百九十八反	九千九百二十二圓
	四千三百八十五疋	六萬八百圓
米	一萬三百九十本	一萬九千九百三十七圓五十錢
和紙	百六十〃	
乾鰯	五萬八千三百六十五斤	
白木綿	十六萬反	
生絲	六百三十八貫目	
雜類	大西郷山三郡	價格
蠶繭	七千九百五本	二千二百四十三反
麥稗	二千二百四十三反	大百九十五本
竹器	大百九十五本	二萬四千六百九十五斤
雜織物	二萬四千六百九十五斤	八百圓
米	百八十貫目	
綿	八百圓	

種類	產額	價格
揚附本	六百二十七萬八千百匁	九萬九千百九十八圓七十二錢
蠶繭	二萬三千三百圓十二圓	一萬五千四十五圓五十六錢九厘
棉織物	四萬五千九百反	二萬八千五十圓
和紙	百五十五萬八千百束	十四萬三千四百五十六圓四十錢
傘	四十萬本	新居一千圓

小一郡

種類	產額	價格
蠶繭	七萬五千四百二十七貫目	六萬七千百三十四
麥稗	三萬五千三百八十八束	一萬四千四百五十九圓
傘	一萬六千本	三百六十圓
織物	三百五十反	二百八十圓

倘は本縣に於ける食鹽の產額は最近の調査に依れば左に掲ぐるが如し而して之を前年に比するに產額の點に於て二十一萬六千四百三十三石を減じたるは降雨續繁なりしに因る然れども其價格に至ては却て四十萬五千二百八十五圓を增加したり是れ諸物價の騰貴に連れて驅價の暴騰せしに基くものとす

鹽	產額	價格
田反別	八四四七反	一、一〇三、二〇〇圓
八七一〇六〇石		五一七

金融の狀況、金利の高低 金融は一般に緩慢にして日歩貸三錢同預金一錢五厘內外を昇降せり之を昨年の此頃に比するに敢て大差なし然れども下等社會は上等社會に比して金融一層滯にして從つて購買力を增加し居るは各地に同じき機運なり

土地賣買價格の騰貴 は一昨冬の頃より始まり目下に至りては殆んど從前の倍價强となり一反歩二百圓以上の相場を現ぜり今日の機運に依れば將來一層の暴騰は免れざるべしと思はる

米其他諸物價 米價は戰役前一石八圓以下に位したるもの爾來日に騰貴して今や十二圓內外に達せり其他日用品共都て殆んど價倍に騰貴したり

米	十一圓八十錢內外	麥 七圓內外
粢豆	六圓九十錢內外	糯米 十二圓內外
大豆	七圓七十錢內外	小豆 九圓三十錢內外

土木事業の盛んなる爲め大工、左官、人夫の賃銀頗る騰貴し一日に付四十錢乃至六十錢位を給するも尙ほ引足らぬ勝なれば下等社會は諸物價の騰貴に左のみ苦痛を感ぜざるもの〜如し又稻作の草取りに雇はる〜日傭賃の如きも一人に付從前は一番草より三番草迄を米一斗五升にて請負ふの例なりしに本年は倍して三斗を給するも尙充分其人を得ずとぞ

人民生活の程度高まりたる狀態 は別に記すべき程の事項を認めずと雖も運賃の膨脹は自ら生活の程度を高め來り呉服物西洋雜貨物等の如きも兎角上等品の需足宜しく下等品は常に停滯勝の狀況を呈せり物產店に紙を鬻して散財する者も近來一層多數と爲り都て金錢を浪費するの傾向少なからず農民も亦近頃米價の騰貴に依りて懷中自ら裕かなる故にや却々に衣服裝飾品に費を鑽し豪農の若息子共が髮を蓄へ料理店に流連し醜先傳來の遺產を大半傾け盡して始めて緣者の意見に夢を覺すの類も往々耳にする處なり

政黨に對する感情の冷熱 本縣は從來とても餘り政黨熱の盛んなるを見ざるは一は其半耳を取り了運動すべき人材の乏しきに職由するゝとなるが戰後實業發達の氣運に向ひし以來往々政黨を脫して會社事業に身を委ねるものゝあり假令脫黨せざるまでも政黨の興敗には殆んど注意せざるもの〜如き狀況を呈せり

富豪民島の野 は南三年來稍改まりたるもの〜如く殊に近來大學出身の高等官都會の地より轉任し來りてより漸く役人風の氣を脫却するに至れり然れども一般官

東中には尙ほ未だ官尊民卑の風あり

戰後兵役に對する感情 は比して一變せり

來軍人は國家の世の風潮は彼等を [illegible] めたるもの多し

兵志願者の如き [illegible] したるも本縣は [illegible] を逃せざりしも [illegible] 宗教の盛衰、[illegible] 宣教師來りて [illegible] に過ぎず今日は [illegible] 者は殆んど地 [illegible] 其盛んなりし [illegible] 僧侶の無智無 [illegible] の者に及ぼす [illegible] 無恥の僧侶中に [illegible] り邪淫、飲酒 [illegible] の至りと云ふ [illegible] 學生の風紀其他 [illegible] に分秩わり最近 [illegible] 校生徒は三百 [illegible] 加なり本年の [illegible] 數に對して入學 [illegible] 六百名の入學志願者の狀況 [illegible] 校舍の狹隘教員 [illegible] るの不幸あり [illegible] し又學生の氣風 [illegible] は從順に富め [illegible] るに劣らざるの [illegible] 一時多少の風紀 [illegible] 敢て壞敗を見 [illegible] て校外の取締を [illegible] ものゝ有て相互 [illegible] すものゝ如きは [illegible] は無論形跡な [illegible] る處なく先づ [illegible] 修學者の增加 [illegible] 中學志願者の [illegible] 者に至りても [illegible] 愈々多く其筋 [illegible] 業の發達と共 [illegible] るの感れるに [illegible] 試みに左に二十 [illegible]

縣下各中學校生徒數

二十六年十二月末日調

內務	二十九年十二月末日調	內務

前表に依れば一百十九名の減數 [illegible]

○獨逸、西班牙通信 [illegible] 通信は去月 [illegible] る所なりとて [illegible] なるが為は清國 [illegible] 國の場合にもか [illegible]